

明治十五年六月二十九日、フェリスⅡセミナリー（現在のフェリス女学院）では、第一回の卒業式そつぎようしきを行いました。卒業証書しゅうじょうしょをもらった、ただ一人の卒業生は、そのとき、たくさんの在校生やお客さんの前で、英語でどうどうと演説えんせつしました。その卒業生が、かし子、後の若松賤子わかまつしずこでした。十九歳のときでした。かし子は、甲子かしとも書きます。これは、かし子が生まれた年、一八六四年の昔ふうの年のよび方でした。昔の暦こよみのよび方で、暦はこの甲子きのえねからはじまるので、甲子かしとはめでたい意味がこめられた名前だったので、かし子の幼年時代は苦しみの連続れんぞくでした。

はげしい会津戦争から母の死、つづいて一家はちりぢりになり、養女ようじよとしてもらわれていった先での養母ようぼとの気まずい思い——幼い心にうけた痛手いたでは、いつまでも心に残ったことでしょう。

みょうじも、生まれた家の松川まつがわ、養女ようじよに行つて大川おほがわ、ようやく父のもとにも